ぴっぴだより

No10. 2023. 12. 22

『難民』と出逢った2023年
私はこの2023年の夏から、関わるには覚悟が必要だと思った、『難民』をテーマにした舞台作品創りをしてきました。
この3ヶ月、様々な状況や立場の方たちと出逢い、話を聴いてきました。

難民になり日本に来た方や、入館施設に入っている方、日本で生まれ育ったけれど仮放免者として生きている方たちの話、そして今も難民キャンプで過ごしている子どもたちの手紙・・・。
彼らの言葉を聴いていると、誰もが『知ってほしい』『私たちはここで生きている』。
このことを願っていると強く感じます。

そして、誰もがただ、大切な人と抱き合ったり、何気ない会話で笑ったり、遊んだり、愛してるよ、と伝えたりしたい。
その事実が私の身体と心に深く沁みて、強く揺さぶられます。

私たちが日々、家族と笑いあい、抱き合えること、何気ない日常を過ごせること、がどれだけ奇跡的なことか、そして大切なことか、、、。

先日の本番の中で舞台上で語られた言葉は、難民キャンプで食料を配る仕事、修理の仕事をしている14歳の少年の言葉です。私たちはドリルくんと呼んでいます。
彼の母親は故郷で命を落とし眠っています。
今生きている唯一の家族の父親が、舞台の本番中に、亡くなったと連絡がきました。『ひとりになった』という言葉だけ。『どうした？』ときいたら、『父さんを朝起こしても、何度も何度も起こしても起きないんだ』『疲れた』。

自分の国で自分の家で自分の部屋で生きていきたい。
家族とただ普通に暮らしたい。お父さん、お母さんの笑顔がみたい。呼吸したい。
これが彼や故郷を追われた子どもたちの願いです。

世界で今も戦争が続いていること。
大切な家族と離れ離れになっている人たちがいること。
お腹をすかせた子どもたちがいること。
大切な人に触れたいのに触れることができない人がいること。
学校へ通うことができない子ども・青少年がいること。
夢を諦めなければいけない人がいること。

今も泣いている人がいるということ。

『知ること』。

この事実を、想いを、アートを通して伝えていくこと、これが今、私たちがやることだと強く感じながら、仲間と物語の始まりを創ってきました。
私１人には小さな声と力しかないけど、仲間とこの演劇を通して伝えていくこと、そして、知り、考え、動くことが小さな１歩、でも大切な１歩になっていくと信じています。

そして『私自身が変わること』。

この始まった物語の続きは、子どもたちのための舞台作品として創作をしていくつもりです。
旅はまだ始まったばかり。
ぴっぴのみなさんにも、彼らの声を、存在を、『知って』ほしい。感じ、わかちあい、語り合いましょう。

大切な愛する人たちとの一瞬一瞬の時間に心からの感謝を感じながら。
そして、世界で一生懸命生きている人たちが、大切な人と触れられる日がくることを、愛が届くことを切に切に願って。

：　小林　聖子

○『じぶんのことば』上映に寄せて　（1月30日㈫予定）
この映画は、『子どもたちの自己表現の場を地域に』をテーマに活動を続けている【東村山子ども演劇プロジェクト】の３ヶ月間を追ったドキュメンタリーです。物語を０から創作する舞台づくりを通して、子どもたちが自分と仲間と向き合い、言葉を生み出し表現する、その過程を丁寧に追っています。私は、４年前からファシリテーターとしてこの活動に参加し、子どもたちが『自分が何を感じているのか』に気づき、向き合い、動き出そうとする姿に心を動かされ続けています。この映画に出てくる子どもたちはもう高校生～大学生。部屋のすみっこにいた男の子が高校生になった今、堂々とそこに存在し、楽しそうに『自分』を表現しています。その姿は逞しく、まぶしい限りです。このプロジェクトのすごいところは、毎年継続しているところ。今年でなんと17年目です。３ヶ月の中でも、もちろん子どもたちは、緩み、安心し、自分や仲間と向き合い始めます。ですが、『自分の表現』を外に出せるようになるタイミングは１人１人違います。それは２年後かもしれない。10年後かもしれない。子どもたちが自分の『ほんとうの気持ち』を感じて知り、どこかの瞬間に『ほんとうの気持ち』を言葉にしたり、身体で表現して伝え始める。関わる大人は自ら表現し始めるときを信じて待つ。長い年月、継続して『感じ、体験、対話する場』があることで、彼ら自身の根っこは深く強くなっていきます。ぴっぴの４年間の育ち、そしてぽろぴっぴへと続いていくことと同じだなあと感じています。子どもも大人も、『ほんとうの自分』と出逢うために、大切な仲間や家族の中で対話を重ねながらゆったりと時間をかけて育ち合っていく、その豊かさや幸せや大切さを、一緒に感じ合い、語り合う時間になればいいなと思っています。　：聖子

森と絵本と巡る季節　1月

森がゆっくりと静かに眠りにつく季節になりました。木々は葉をおとし、来年の春まで
あたたかいふわふわの冬芽や氷点下でも凍らない鱗に身を包み眠りにつきます。
動物たちもまた、冬眠といって寒くたべものの少ない冬を生きのびるため眠ってすごす
ものが多くいます。

みなさんがよくご存知なのはクマでしょうか？しかし、クマ（特に母グマ）は冬眠中に冬眠穴の中で「出産」「子育て」という大仕事をこなしていてのんびり冬眠…という感じではあまりありません。ほかにも「ヤマネ」という動物はご存知でしょうか。手の平にのるくらいのモルモットなどの仲間で、英語では「ドゥーマウス」といい意味は『よく眠るもの』。なんと!! 7ヶ月近く、眠りにつきます。
さらに! 驚くのはその体内システムで、なんと心拍を極端にさげることにより体温を0℃近くにまで下げ、ほぼ凍った状態で長い間眠り続けるのです。これこそ最高の省エネ!?
しかし、外気温の平均が9℃以上になってしまうと体温があがり目覚めてしまうらしく、最近の温暖化（暖冬）が彼らの命をおびやかしているそうです。
現実の冬眠事情はいろいろと大変なところも多いですが、今日は冬眠＝ふゆごもりをテーマにした絵本をご紹介します。

『たのしいふゆごもり』片山令子作（福音館）
クマの親子のたのしいふゆごもりの様子が片山健さんの色彩豊かな絵とともにいきいきと書かれています。どんぐり集め、お魚とり、こしょうみつにきのこをどっさり集めてお母さんは大忙し！そうそうヤマネも登場します。おうちに帰ってたっぷりとごちそうを食べて、あたたかくして、よふかし…。　思わず、こんな冬の日のすごしかたも素敵だなぁと思ってしまうお話です。
どうぞみなさんも素敵な冬ごもり、もとい冬休みをお過ごし下さいね♪　：葉々恵

花は花だより

ついこのあいだ夏だった気が..
振り返ると瞬きをする間に今年も残りわずか
という感覚。。

お米の種をまいた4月、田植えをした5月.草取りをした6月と7月.8月に花が咲き穂が出てかかしを作り、10月に稲刈り、脱穀.11月に新米まつり.できあがったお米を食べ進めている今.

日々の主食のお米の作る行程に、少しでも関わっている人とそうでない人の、目の前のお茶碗一杯のごはんを見る目って、やっぱり少し違うかもしれないと思うのです.ここにくるまでに、人の手だったり天気だったり時間もかけて…

背景を知ること感じることは、自分が関わっていない別のものや事に対しても、想像する力が働くように思います.　目の前にいるこの子の気持ちは?はたまた自分の気持ちは?　今、どう感じている?　それはどこから?…

ぴっぴで食べるお米をぴっぴの子どもたち、大人たちと、の中にある自分の願いみたいなものを想像する　2023年の年の瀬です.

今年もありがとうございました!　はるこ